

1. 2020 年度報告

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連)

－ 2021 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施状況 －

トピック例：

- ① 大学入学共通テストの導入に向けた検討状況 ② 一般入試に代わる入試の検討状況
- ② 入試広報の展開状況

[1] 2021 年度一般選抜改革の実施状況

入試制度改革後(改革内容の詳細は 2019 年 5 月 31 日付でプレスリリース)初めての一般選抜ということもあり、前例のない運用による実施に加え、コロナ禍の例外対応等が求められたが、慎重かつ丁寧な感染症対策を講じ、また問題冊子や解答用紙の配付・回収の効率化、採点体制等の見直し等を行い、大過なく遂行した。

また、大学入学共通テストを導入し学部独自試験の科目数を英語 1 科目に限定したところ、これまで首都圏の私立校に比して割合の少なかった首都圏以外の公立校からの受験者数・合格者数が若干ではあるが上昇し、当学部を志願する層の多様化推進の傾向につながった可能性がある。今後、引き続き注視していきたい。

[2] AO 入学試験(国内選考)改革の実施状況

志願者に課すエッセイ等出願書類の内容の見直しを行い、審査方法を英語能力に偏重しない、より総合的な評価を行うものに改めた。オンライン出願システムを導入し、志願者側の利便性向上(志願者数が前年度 682 名から 732 名に増加)と入試実施側の効率化(出願データ管理から審査のフローの一部のオンライン化を達成)の双方に効果が見られた。

[3] 入試広報の展開状況

コロナ禍において例年のような対面による広報機会は失われたが、郵送による学部パンフレットの無料配布、予備校と連携したオンライン説明会の開催、デザインを専門とする業者へのスライド・動画コンテンツ制作の委託等、物理的距離の制約を超えた新規広報を企画・実施した。地方からの資料請求や海外からのオンライン説明会へのアクセスも確認でき、これまで志願者数の少なかった首都圏以外・地方の高校、また海外の高校へのリクルートについても一定の効果があったと考えられる。

(2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連)

ーグローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み状況ー

トピック例：

- ① カリキュラムの体系化に向けた改革 ② 持ちコマ数削減に向けた取り組み
- ② 教員採用に関する取り組み (公募制、テニユアトラック制の導入)

≪学部関連≫

[1] カリキュラムの体系化に向けた改革 (コンセントレーション制度)

2016年4月よりコンセントレーション制度を開始した。当学部が指定する科目群の中から一定以上の単位数を修得した場合、その分野(コンセントレーション)の修了証明を受けること(卒業時に証明書を発行)が可能となった。2020年度については、前年度に新たに2つ分野が加わり全部で11のコンセントレーションが設置されている。当初は指定科目の見直しを実施する予定であったが、コロナ禍の下、制度および授業の安定的な運営に主眼を移したことから、各コンセントレーションの見直しは行っていない。2020年度中の修了者の人数は以下のとおり。

2020年9月卒業者：51名

2021年3月卒業者：39名

[2] 教員採用に関する取り組み (公募制、テニユアトラック制の導入)

当学部では発足当時より全ての教員採用を国際公募により行っており、テニユアトラック制も発足当時より取り入れている。採用時の研究・教育実績に基づきテニユアまたはテニユアトラックで採用し、2021年度は、2名の教員をテニユアトラックで採用予定である。また、国際課と連携し、カタルチエアに関わる教員として、訪問教授(2020年9月1日着任)を1名採用した。国籍と性別の多様な教員が採用され2020年10月現在で専任教員の約39%が外国人、約40%が女性であり、いずれもWaseda Vision 150の数値目標を超過達成している。

≪大学院関連≫

[1] 国際コミュニケーション研究科における学位審査の体制整備

2020年度は、2020年9月に1名、2021年3月に2名の博士学位取得者を輩出した。本学や他機関においてそれぞれ研究者としてだけでなく、教育者としても活躍している。学位審査の体制の整備と研究倫理教育のさらなる充実を図るため、研究科設置の研究倫理科目の履修に加え、2020年度入学者より、グローバルエデュケーションセンター設置のオンデマンド科目『研究倫理概論』の履修を必修化し、研究計画書提出前までに単位を修得することとした。また、類似度判定ソフトウェアを活用することで剽窃・不正行為を未然に防止しつつ、精度の高い学位審査を行う環境を整備している。

[2] 教育課程の見直し

前年度から引き続き研究指導科目および講義科目の内容を点検し、修士課程のみならず博士課程においても多くの国際教養学部専任教員が研究科の指導に関わる機会を創出しつつ、修士課程の学生には国際教養学部科目の履修も可能とすることで学部と大学院間での連携強化とともに教育の充実化を継続している。また、博士後期課程だけでなく修士課程においても2020年度入学者より、グローバルエデュケーションセンター設置のオンデマンド科目『研究倫理概論』の履修を必修化し、研究計画書提出前までに単位を修得することとし、本格的な研究を始める前から、剽窃行為等に対して意識するよう促している。

(3) 研究関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連)

－ 研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み状況 －

トピック例：

- ① SGU7 拠点との連携状況 ② 教員の研究時間確保に向けた学術院としての取り組み状況
- ③ 研究成果発信 (主に海外向け) の取り組み ④ 附置研究所との連携状況

≪学部関連≫

[1] SGU7 拠点との連携状況

本学部所属の 4 名の教員が SGU グローバルアジア研究拠点にメンバーとして参加している。

[2] 外部研究資金等の獲得

本学部教員が研究代表者の 2020 年度科学研究費新規採択数は 12 件、前年度からの継続分を合わせると 41 件あり、その内 3 件は「国際共同研究加速基金」に採択されている。また、昨年に続き、国際部による助成プログラム「ブリュッセルオフィスにおけるセミナー実施」に、2020 年度は 2 名の教員が採択された。本学部所属の 1 名の教員が "ERASMUS+" Programme Jean Monnet Chairs に採択され、EU からの補助金に基づく研究活動を昨年度より継続している。

[3] 海外からの研究者受け入れ

例年、国際課を介して受け入れているが、コロナウィルス感染予防の影響を受け、今年度は 3 名の受け入れにとどまった。

≪大学院関連≫

[1] 大学院生の研究・教育への参画

国際コミュニケーション研究科に所属する博士課程学生が、助手や非常勤講師として学内外において採用され活躍している。また、中学校や高等学校において英語教員として活躍しながら、その経験を研究にも活用する学生もいる。現在ある 18 研究指導のうち、2 研究室において博士課程が在籍しており、指導教員のもと博士課程学生と修士課程学生が相互に研究活動に参画する機会を持っている。

[2] 研究科紀要の発行

研究科紀要「トランスコミュニケーション/Transcommunication」を年 2 回発行している。特に、入学以前に論文投稿経験が少ない学生にとり、査読付論文掲載ができる貴重な場として活用されている。早稲田大学レポジトリに掲載することにより、国内外に公開している。

[3] 海外で開催される学会への大学院生派遣

海外で開催される学会に研究科生を派遣、研究論文等の発表を行うことを奨励している。今年度は、コロナウィルス感染予防のため、申請者はいたものの、すべて派遣には至らなかった。

[4] 国際シンポジウムの開催

例年、文部科学省スーパー・グローバル大学創成支援事業の一環として、国際シンポジウム等開催助成を受け、国内・海外から研究者を招聘しているが、今年度は、コロナウィルス対策のための緊急事態宣言等の影響を受け開催に至らなかった。代わりに、学内資金を活用し、オンラインセミナーを 1 件開催した。

・“Suspensions of Concentration: Kimetsu no yaiba and Blockbuster in the Year of the Global Pandemic (Waseda University Anime Seminar)” (代表 吉本光宏教授、ハーツハイム ブライアン講師)
2021年3月19日、20日開催

[5] 海外からの研究者受け入れ

国際課を介して、海外の研究者を2名受け入れた。

(4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 8 関連)

－ 派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み状況等 －

トピック例：

- ① 英語学位プログラムの進捗状況 ② 海外での学習経験をカリキュラムに組み込むことについての検討状況

«学部関連»

[1] 英語学位プログラムの進捗状況

学部が設立された 2004 年度より一部の科目を除いて科目は英語で設置されており、2020 年度実績で総科目数 837 の内 741 科目 (88%) が英語で設置されている。多くの科目は他学部の学生にも開放されており英語学位プログラムの学生を中心に多くの学生が本学部の科目を登録している。2020 年度実績で春学期 319 名 (政治経済学部 165 名、社会科学部 46 名、理工 3 学部 20 名、文化構想学部 26 名)、秋学期 175 名 (政治経済学部 64 名、社会科学部 32 名、理工 3 学部 10 名、文化構想学部 20 名) が本学部の科目を登録した。

[2] 海外での学習経験をカリキュラムに組み込むことについて

学部が設立された 2004 年度より日本語を母語とする学生に対して 1 年間の海外留学を義務付けており、2019 年度までの 15 年間の累計で 7,542 名を留学に派遣してきた (2019 年度の派遣学生は 456 名)。しかしコロナ禍により 2019 年度秋学期の派遣留学と 2020 年度春学期の派遣留学プログラムが一部では途中で帰国せざるを得なくなり、通常とは異なる時期に帰国することとなった学生への対応・ケアに追われた。2020 年度秋学期の留学も原則として中止され、一部の学生はオンラインによる留学などに切り替えざるを得ず、例外的な対応が増加した。

[3] 留学生の受入促進

例年、本学部の学生総数 3,000 名中約 1/3 である 1,000 名程度の留学生を約 50 の国/地域から受け入れている。この中には大学全体の交換留学生の 45%を引き受けている SP3 プログラムの学生約 300 名が含まれており、それ以外にもダブルディグリー受入学生 (北京大学、復旦大学、国立台湾大学、シンガポール国立大学、アラム大学、香港中文大学、チュラロンコン大学)、グローバル・リーダーシップ・フェローズ・プログラム (GLFP) の学生も含まれている。しかし、2020 年度についてはコロナ禍により原則として交流学生の受入が中止となった。

[4] 箇所間協定の拡充

2020 年度中にはコロナ禍により新規箇所間協定の締結はなかったが、2021 年 3 月時点で現在進行形でイギリスのロンドン大学ゴールドスミス校との間で学生交流に関する協定の締結に向けて協議を重ねている。

また、2018 年 3 月にパリ政治学院と締結した箇所間協定による、5 年間で当学部の学位とパリ政治学院の修士課程学位を取得可能な BAMA プログラムについて、当学部で推薦者を選考し、先方大学へ推薦した。

[5] 文部科学省 大学の世界展開力強化事業 (AIMS プログラム) による学生交流の実施

文部科学省の補助金事業の採択期間は 2017 年度で終了しているが、期間終了後も東南アジアの関係国との学生交流の継続を目的として、指定寄付による AIMS 参加学生修学支援奨学資金の要綱改訂を行い、2018 年度からこの奨学金を利用し、大学間協定の枠組みの中で規模を縮小して運用し、学生交流を継続している。

«大学院関連»

[1] 海外の大学院との連携強化

例年は当研究科との連携の可能性について海外大学院より問い合わせが寄せられるが、2020 年度についてはほぼなかった。この先、海外大学院との連携についてどのような可能性があるか検討していきたい。

(5) その他

－ (1) ～ (4) に該当しない、学術院独自の戦略・プロジェクト等 －

[1] 「地域研究および多言語・多文化教育プログラム」(APMプログラム) の実施

- ・ 2020 年度春学期および秋学期に任期の終了する講師（任期付）の後任の採用を行い、結果としてスペイン語、中国語、朝鮮語の後任講師 3 名が着任した。
- ・ 2020 年度春学期より CLIL 教育を専門とする講師(任期付)を嘱任し、APM プログラム全体の CLIL 教育をコーディネートしている。APM に関連する授業も担当し、2020 年度は CLIL 関連で 4 科目担当した。
- ・ 以下のトライリンガル教育科目を引き続き国際教養学部を設置し（CLIL[内容言語統合教育]科目を含む）、国際教養学部の学生だけでなく、他学部の学生にも開放した。2020 年度は合計で 866 名の学生（うち全学オープン科目として設置した第 2 外国語で実施される科目や、オープン科目でない CLIL 科目等の APM 科目全体で 172 名の他学部の履修者を含む）に対し、多言語運用能力と多文化理解に必要な実践教育を行った。
春学期 計 19 科目（フランス 5、スペイン 5、中国 5、韓国 4）
2020 年度登録者数計 399（内、他学部の学生 95）
【ご参考】2019 年度登録者数計 378（内、他学部の学生 63）
秋学期 計 17 科目（フランス 4、スペイン 4、中国 4、韓国 5）
2020 年度登録者数計 467（内、他学部の学生 77）
【ご参考】2019 年度登録者数計 380（内、他学部の学生 60）

2020 年度は本プログラムで開講する全ての科目をオープン科目として、全学部の学生に開放したことにより、すべての APM 科目の学習機会を全学部の学生に提供した。
- ・ パリ政治学院との間で締結した学士・修士 5 年プログラム（5BM プログラム）の協定に基づきプログラムを導入し、2021 年度出発の学生を学部内で選抜し、1 名を先方大学に推薦した。
- ・ 国際教養学部の留学準備講座に APM 教員 4 名が参加し、スペイン、フランス、中国、韓国それぞれの国への留学の意義について講義を行った。

2. 2021 年度計画

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連)

– 2022 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施計画 –

トピック例：

- ③ 大学入学共通テストの導入に向けた検討状況 ② 一般入試に代わる入試の検討状況
- ② 入試広報の展開状況

[1] 一般選抜・AO 入学試験(国内選考)改革後の安定運用

改革初年度の実施となった 2021 年度入試について総括を行い、今後の入試実施を安定的に遂行すべく改善点の検討を行う。また、新学習指導要領による 2025 年度入試改革を見据えた情報収集、現制度における課題の洗い出しを行う。

[2] ウイズコロナ、アフターコロナを見据えた入試実施・広報企画

学部・研究科ともに、コロナ禍の 2021 年度に実施した非対面型の入試実施・広報企画を総括し、業務効率化や志願者の利便性・満足度の向上の効果が認められたものを継続する等、最適化を行う。また、今後の感染症拡大の状況を考慮しつつ、対面型・非対面型のハイブリッドによる持続可能な形での入試実施・広報企画体制を検討する。

[3] AO 入学試験 (国外選考・9 月) の見直し

コロナ禍の影響および出願の全面オンライン化により、海外からの志願者が増加傾向にあるため、より質の高い入学者を効率的に選抜できるよう、選考方法等の見直しを検討する。また、2021 年度以降、全学部の英語学位プログラムがオンライン出願に移行することから、他箇所との連携を密にとり、志願者にとって利便性の高い出願システム・フローを構築する。

(2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連)

ーグローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画ー

トピック例：

- ③ カリキュラムの体系化に向けた改革 ②英語学位プログラムの進捗状況
- ③ 持ちコマ数削減に向けた取り組み ④教員採用に関する取り組み (公募制、テニュアトラック制の導入)

≪学部関連≫

[1] カリキュラムの体系化に向けた改革

当学部では Intensive English, Tutorial English, English Academic Writing という 3 種類の科目により英語教育を実施してきている。近年は新規入学生の英語力が著しく上昇傾向にあることから各科目の難易度、科目編成などについて抜本的に点検と見直しが必要である。学部内の英語教育検討委員会にて英語教育に連なるカリキュラムの見直しを、100 分授業の導入も視野にいれて検討する

[2] 英語学位プログラムの進捗状況

学部が設立された 2004 年度より一部の科目を除き、大多数の科目は英語で設置されている。2021 年度計画で総科目数 815 の内 719 科目 (88%) が英語で設置されている。2021 年度についても引き続き他学部生にも科目を提供することで、当学部設置科目が本学の学生たちが広く交流できるハブとなるような環境整備を継続する。

[3] 教員採用に関する取り組み (公募制、テニュアトラック制の導入)

2021 年度・2022 年度は専任教員募集凍結の大学方針に対応するため、人事計画の見直しが必要である。学部カリキュラム運営に支障が出ないよう、必要な措置を講じるとともに、2021 年度は、任期付講師の募集を予定どおり行う。募集にあたっては、これまでと同様に国際公募を原則とする。2021 年度に採用決定しているテニュアトラック教員 2 名および任期付講師 1 名は、いずれも海外で博士学位を取得した若手研究者である。また、引き続き国籍と性別の多様な教員の採用に配慮し、Waseda Vision 150 の全学的な数値目標達成に貢献したいと考える。

≪大学院関連≫

[1] 教育課程の見直し

入試制度やカリキュラムの点検・見直しを継続して行い、研究・教育活動が円滑に実施できるよう、適宜制度の修正や科目の充実をはかる。特に、既存の科目の見直し・点検を教員の退職や特別研究による不在期間を加味しつつ、検討する。

(3) 研究関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連)

－ 研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み計画 －

トピック例：

- ① SGU7 拠点との連携状況 ② 教員の研究時間確保に向けた学術院としての取り組み状況
- ③ 研究成果発信 (主に海外向け) の取り組み ④ 附置研究所との連携状況

≪学部関連≫

[1] SGU7 拠点との連携状況

本学部所属教員が、引き続き SGU グローバルアジア研究拠点にメンバーとして参加する。

[2] 外部研究資金の獲得

前年度に引き続き、既に採択されている事業に基づく研究活動を継続する。コロナ渦の状況にもよるが、国際シンポジウムの開催や、国際部による助成プログラム「ブリュッセルオフィスにおけるセミナー実施」等の活動促進に、引き続き取り組みたい。

≪大学院関連≫

[1] 大学院生の研究・教育への参画

引き続き大学院生、とりわけ、博士後期課程の学生の研究・教育への参画機会を拡充していく。

[2] 研究科紀要の活用

研究科紀要「トランスコミュニケーション/Transcommunication」を、研究科のステータスをあげる情報発信のツールとして位置付け、所属教員および学生が積極的に活用できるよう引き続き検討する。

(4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 8 関連)

－ 派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み計画等 －

トピック例：

・海外での学習経験をカリキュラムに組み込むことについての検討状況

≪学部関連≫

[1] 海外での学習経験をカリキュラムに組み込むことについて

学部が設立された 2004 年度より日本語を母語とする学生に対して 1 年間の海外留学を義務付けており、2019 年度までは年間 400 名～600 名、15 年間の累計で 7,542 名を留学に派遣している。しかし、コロナ禍により越境を伴う国際交流が実質途絶えている現状を鑑み、物理的な国際移動を伴わないオンライン上での留学、科目履修についても検討を視野にいれたい。2021 年度秋学期からは APRU の Virtual Student Exchange への提供科目拡充を検討、急速に多様化を遂げようとしている留学の形式に合わせた仕組みを本学部内にも導入することで学生へのサービスをより充実させる。

[2] 留学生の受入促進

本学部の学生総数 3,000 名中約 1/3 である 1,000 名程度の留学生を約 50 の国／地域から受け入れている。2021 年度についてもこの水準を維持する努力を継続する。また、大学全体の交換留学生の 45%を引き受けている SP3 プログラムについては大学全体の交換留学生の受入の方針に沿いつつ、通常時の受入体制を維持し、留学生の受入を促進する。

[3] 箇所間協定の拡充

現在協議を重ねてきているイギリスのロンドン大学ゴールドスミス校との間の学生交流協定について引き続き推進、締結を目指す。

パリ政治学院との BAMA プログラム（当学部の学士とパリ政治学院の修士を合計 5 年で取得するプログラム）について、2 期目の候補者を選出し、パリ政治学院に推薦する。

[4] 文部科学省 大学の世界展開力強化事業 (AIMS プログラム) による学生交流の実施

補助金事業期間は終了しているが、東南アジアの関係国との学生交流の継続を目的として指定寄付による AIMS 参加学生修学支援奨学資金を利用し、大学間協定の枠組みの中で規模を縮小し実施を継続する。

≪大学院関連≫

[1] 海外の大学院との連携強化

研究・教育における連携や教員・学生相互の交流などの可能性を引き続き検討していく。

(5) その他

－ (1) ～ (4) に該当しない、学術院独自の戦略・プロジェクト等－

[1] 「地域研究および多言語・多文化教育プログラム」(APMプログラム) の実施

- ・ 現状の APM プログラムは国際教養学部で提供している「その他外国語」6 言語の内、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語の 4 言語のみ実施しており、ドイツ語とロシア語については実施に至っていない。APM プログラムそのものの拡充という観点から、ドイツ語とロシア語の可能性について検討する。
- ・ CLIL 科目をオープン科目とし、他学部学生の CLIL 教育については APM プログラムについて知る機会を増やす。これによってより多くの他学部学生が APM 科目を履修し、プログラム内での学際的な環境が自然と構築されていくよう促したい。
- ・ 現行のトライリンガル教育科目については引き続き国際教養学部を設置する (CLIL[内容言語統合教育]科目を含む)。引き続き、当該科目群を国際教養学部の学生だけでなく、他学部の学生にも開放し、多言語運用能力と多文化理解に必要な実践教育を継続する。
- ・ パリ政治学院との間で締結した学士・修士 5 年プログラム (5 B Mプログラム) の第 2 期生以降の選抜、推薦を進める (2021 年 2 月時点で 2 名の応募者を学部内で選考中)。

以上